

警城大衆新聞

毎月二回 一日十五日発行
定価 一月十銭
廣告 一行五十銭
科 (場所指定) 十銭増
發行所 警城大衆新聞社
長谷川兵衛
前二十番地
福島縣平野町

縣議政戦の展望(三) 政友會の巻(上)

往年絶對多數にしてピンから幹事長たる鈴木辰三郎氏と、富キリ迄政友會に非ざれば成し能加藤丈夫氏の出馬決定と、田ざるの權勢を極めた石城政友會子健吉氏の公認の可否であるとも、釣瓶落しの凋落の姿となりの事だ。

白井王國の再現は痴人の夢であらう。

余日五千足らざるの後に迫るとして出馬する人々を、詮衡の政戦は果して如何なる陣營を組重大事件である記者は前回に織され、亦た其戦術は必ずや大政友會は公認四名説と公認五衆を呼び戻し得るであるか、頗る興味を惹くであらう。

茲に下馬評の人々を列挙せば
赤津庄兵衛、兒玉萬平、山崎藤次夫、山崎吉平、伊藤淺之助、井上茂作、關内正一、島田兼吉、田子健吉、鈴木辰三郎、小野晋平氏を勇退せしめて公認等の諸氏であるが、茲に御多分四名の内井上茂作氏を加へて洩れざる舊政友、新政友の二大熱戦したる事を聊か舊き記憶よ暗流の抗争は如何に其鋒を収り喚び起したるのである。

め、復た公認三名説と公認四名前回敗戦の將として各方面より説と相違ふて即ち元老組は三名同情の眼を以て迎ひらる、平町説を固持し、少壯組は公認四名々々議員、消防組頭井上茂作氏説を主張高唱して歌ざるの勢ひの再出馬は確實なる當選者と信である。去る十三日平町大村屋旅館に開かれたる石城政友會の最高幹部の選挙對策は、細にの有する一問題がある、去る某入り微に涉り長時間の論争されたるを聞く。然かも其の内容の如何は本稿の締切り迄には確報閉居に暮夜密かに裏門をタ、キを得ぬのであるが、可なり難問題をとして取扱れたるは縣支部

即ち部會幹事長井上茂作氏と

當の加藤丈夫氏と不離不則の因果關係を有する常任幹事であり部會の重鎮と他自共に許した、町議高橋龜松氏の御兩人である高級セダン自動車で乗り驅せられたるが敢て記者の熟知する處でない。此の政戦珍策劇の終局が何んどケリがツクか、政友會大入満員の觀客は手に汗を握つて開幕を待望して居るのである町議當選以來、新人を以て長期に涉つて井上一派と相反する行動が多少世人をして不可思議なりと異様に感じて居つたのである。

然るに去る一日の町會に幸未俱樂部の座頭たる資格の以て大勢順應の名の下に井上一派と完全なる握手を交された一事件である、マサカ、關内正一氏とも謂はる、少壯政治家たるものが例のクスリや宇佐美式の賣名の爲めに縣議出馬の決意を洩したものであるまいと思ふのである此の井上對關内亦たは井上對加藤と云ふ多角係數の問題の解決が本郡政友會の公認候補者の決定するに頗る重大なる關係を有する事は言を俟たぬのである。公認三名説は結局四名と決し、戦術の如何に依つては、民政黨内証の間隙に突撃奇襲せば敢て四名の縣議を送るに困難でないが、殊に最近此の種の傾向が一層濃厚となり平町助役推薦問

題の如き萩原氏の態度は最初か

(福島民報より轉載)

和銅鐵金物問屋
釜屋商店
電話 九九番

事業と人物
小宅嘉久治君
郡南鮫川の清流を十數町を西に

野崎氏に對する 萩原氏の追隨振り 反野崎派から非難擧る 何れ一紛糾は免れる

兒戯に等しき些々たる感情問題から酒井擁立派を以て任じてゐたから野崎萩原の兩派が犬猿の抗にも拘らず豫てから大勢順應主義を續け日を追ふに連れて益々義とは云へ比較的野井擁立派に激烈を極めつつある事は周知の好意を寄せてゐた野崎一派の事實であるが、最近に至り萩原態度が最後に至つて急變するや義雄氏の態度に軟色を見出した從來の主張を放棄し無條件にて即ち將來野崎派と相提携せざ反擁立派のため野崎一派の軍門

暑中御伺

昭和六年盛夏
藥劑士 山野邊東次郎
平町五丁目

愚生例に依て奮闘主義を勵行し、今夏も頑然家居流汗家業に勵精能任候。暑も寒も畢竟心の持ち様、焦心の火、心頭を發して冷泉又暑く、心頭冷龍靜即ち淋漓活動、涼趣却て其中に有之候。

茲に謹で平素の御厚情を感謝し尙ほ一段の御愛眷を希上候 敬白

れば自己一身の浮沈にかゝるに下り、見え透えた追隨振りを事を自覺したか、今度は野派に發揮するなど識者の嗤笑を買つ對し事毎に迎合の態度に出で、そこで極端な反野崎派のるもので政民兩派を問はず心あは萩原氏の此の無節操ぶりに對するものはニガト、しく感じてゐる。其の非難の聲を擧げてゐるが、殊に最近此の種の傾向が一層濃厚となり平町助役推薦問

題の如き萩原氏の態度は最初か

(福島民報より轉載)

恩師佐々木博士の懇請に據りて北海道小樽市の唯一の大病院たる色内病院院長に就職せり、多年中央學界に究研修練せる氏の手腕は道内に風靡の勢ひであつた茲に數年の星霜を送りたるも天才的頭腦の持主たる氏は永く此の北海の雪の内に埋まるゝを潔きよしとせず再度上京して帝國大學の研究生となり耳鼻咽喉科の研究に勵む、向上心の燃る氏は更に轉じて三井病院の内科学長として奉職す、警城の天地に影を己等に需められて大正六年八月前記の場所を開業して今日に至る。氏の卓抜なる技術と懇切なる診察とは忽ち町民の信望の的となり、患者門前市を植田町に中屋肥料店を経営し地方農民を救ひ且つ傍らに警城無盡商會なるものを創設し、警城土金融界の爲め尠らざる貢献したるののである。其成績は實に稀れに見るの優大なる業績を印するに到りて、本店を郡南に置くの不便と歎少を感し平町大町十三、十四番地に廣大なる建物を建設し、茲に本店を移轉し大に其擴張に努めたる處、信用第一主義のモットーが加入者に好成績を以て迎ひられ幾何級數的發展を見、今や縣下は勿論東北業界の第一任者として賞讃せらるゝに至りたるは決して偶然に非ず、蓋し君の人格力量と好漢自重せられよ。

藤沼平次郎君
本縣警界の重鎮
平町縮屋町の中程に清楚たる門構の醫院、即ち本編の主人公たる藤沼君の居宅である。氏は野州菊澤村の素封家に生れ、郷校を優秀なる學績を以て出づ、直ちに現在の東京醫學の前身たる濟生舎に學び若年にして國家試験に合格し、更に内科大家たる東京駿河臺佐々木政右衛門博士の助手となりて學術實地の研究に努めメキ、其技術を認められ

大衆片々
若槻内閣の行政整理はレンペン式で所謂龍頭蛇尾
四倉港の問題は初頭から誤つて居る、入黨條件の築港などは完成した試しなしである
比佐代議士は陸軍參與官なるが故を以て本省の運動は出来ぬと明言す
此の一言を承つたは四倉上京委員の憤慨の暴發
四倉子だ暴發するが當然、治道徳を力説した何んとか云ふ男
此の男自己の職業には道徳も人情もなき事は周知だ、ソレで政治道徳をウカスとは鈴猫式の男だよ



▲盛夏九十何度の苦熱、花明柳暗の新田町の諸君も暑さの感は同一であるであらうと

▲ボエルの肌着に、ボエルの腰巻、何物をか透視して深刻な情を湧起せしめる新戦術か去りて梅の湯行は廢止して欲しいよ、夫れでなくとも夏の艶しい薄物は挑戦的だ

▲谷口の新妓市勇、姉さん勝太郎君の御跡を慕ふて平町へも御榮聲、御座敷何れに行つても江戸兒を振る、通のオーさん、オイ市勇は本名なんぞ聞けば「アタイは是れでも谷口の一流よ」と人を喰つて居る市勇を一流なんて「ゼザインするなんて

▲仲家の一寸助箱、磐城七濱の盆踊り唄をレコードに吹込んだ以來、クラマ山の青天狗然たる鼻……去る日常陸大津港の海祭りへ御出演、其感想を尋ねれば如何、大津繪の祖先の地だよ、ナル程一寸助の一寸助観だよ

▲湖月の萬子、平には工兵が居りませんで淋しいよ、と嘆ぐ其古事來歴をサグれば前任地は赤羽です

▲春子姐さんも近かに内に廢業して藝妓家を始めるよ、則ち藝は身を助の眞理でせうか

▲開花の花榮姐さん、夜の海邊にドライブ御同伴の酔人スピードが強いと御心配すると姐さん曰く「アワイとの同伴しても決してケガはない」との御宣託

▲榮姐さん、初對面の御客にも余りにグロですよ、悔い改めなければ遂には不榮と變名するの悲運がね

大衆ポスト

▲自動車は無賃乗車する癖に書入れの日曜日に一二人の過乗をトガメルなどの巡查君の心理が判からぬよ、(一運轉手投す)

運動具と服装!!!

▲秋原義雄君の無定見なあの町會には恐入つたね、紋寅も綿安も分離するのが當然でせう(研町の民政黨)

▲去る十日夜南町の成田山御祭禮の夜、南町紅軍が總出の街

運動具と服装!!!

榮冠輝く品質
價格のファイインプレー!

マルカ運動具部

電話三十二番

▲平町の衛生上に關して平衛生會なるもの、存在は何處にある(ボーラ生)

▲自稱大政治家などと農村に毒害を流すインチキ某教師の何んとか野郎今一度豚箱にでも入り度のか(木田生)

▲去る一日の助役推薦の町會議員は恰も村の御田植祭りの茶番芝居だよ、十一番の與駄と(コンミッション生)

大々的値下

如何なる眼鏡でも取揃へてあります

秋山時計店

秋山秀男

暑中御伺

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|------|------|------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|-------|
| 木村清治 | 比佐昌平 | 鈴木辰三郎 | 野崎滿藏 | 鷺清昇 | 山崎吉平 | 金成通 | 鈴木源藏 | 關内正一 | 井上貞治郎 | 多井笑次郎 | 三井文吉 | 小松善四郎 | 江口忠一 | 飯田近治 | 山崎與三郎 | 木澤常松 | 杉山今朝吉 | 高階一郎 | 小宅嘉久治 | 佐藤留藏 | 小田吉治 | 萩原伸八 | 滑川敏之輔 | |
| 小林清吉 | 石川八十吉 | 小野晋平 | 安島重三郎 | 四家又一 | 加藤丈夫 | 佐藤三平 | 阿部唯次郎 | 長瀬富彌 | 小野長吉 | 小原喜八 | 河田梅吉 | 緑川德次郎 | 鈴木喜太郎 | 緑川茂 | 薄葉安久 | 丹野榮三郎 | 坂本隆藏 | 永山少平 | 大黒屋勝治 | 鈴木堅助 | 齋藤喜代松 | 大平藥局 | 大谷久藏 | 秋山時計店 |

石城郡 町村長會

平町町會議員一同
石城學校長會
平町公立懇和會
石城銀行組合
平町藝妓組合
信用平庶民金庫
組合平庶民金庫
片倉製絲所
古河炭礦株式會社
磐城炭礦株式會社
入山探炭株式會社
東部電力株式會社
平運送株式會社
平町三業保險組合
平町旅館組合
豊大敷網事務所
豊間濱屋旅館

佐藤醫院

内科小兒科一般
泉驛前
電話一一番

開業廣告

耳鼻咽喉科 專門
氣管食道科 專門
平町南町(元真木辯護士跡)
増田耳鼻咽喉科醫院
日本醫學士 増田之
(入院隨意) 電話四二八番

關内藥店

平町五丁目
電話四〇番

大野吳服店

主 大野 榮一

磐城共濟病院

院長 醫學博士 石山謙郎
本院 主管 賀澤忠治
電話六四一番

高久病院

平町田町(電話五一三番)
醫學士 高久 忠
新潟醫學士 赤羽 清
藥劑士 佐竹菊雄
内科、小兒科、外科、花柳病科
耳鼻咽喉科、レントゲン科

大和田醫院

平町南町
醫學士 大和田軍司
電話一七〇番
(病室完備自炊の便あり)

難波醫院

開院(平町大町)
電話五〇二番
醫學博士 難波 睦
醫學博士 難波 睦
(入院需に應ず 自炊便あり)